



米 国

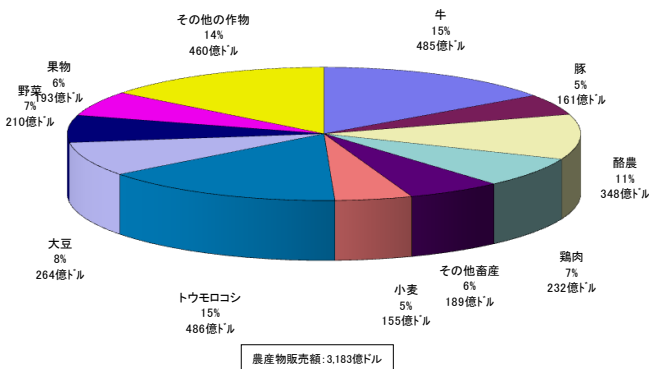
◆1. 農・畜産業の概況

米国経済における農業の位置付けは、他産業の発展に伴い時代の経過とともに低くなる傾向の中、2008年においては、GDPに占める農業生産（農産物販売額：現金収入の暫定値）の割合は2.3%と前年を0.2ポイント上回っている。世界の中では、農業生産額は中国に次いで第2位、農産物貿易額は輸出入ともに首位を占めるなど、米国農業の影響力は引き続き高い水準にあると言える。

2008年の農業経営体数（農産物の年間販売額1千ドル以上）は197万6千戸であった。農用地面積は9億1991万エーカー（3億6800万ヘクタール）、1経営体当たりの農用地面積は418エーカー（167ヘクタール）であった。なお、年間10万ドル以上の農産物販売実績のある経営体は全体の6.8%で、全農用地面積の16.4%を占めている。

2008年の農産物販売額（現金収入、自家消費分は含まない）は、3242億ドルと前年を12.4%上回った。このうち、作物部門は1831億ドルで前年比22.1%増となった。畜産部門も前年を1.8%上回る1411億ドルとなり、農産物全体に占めるシェアは、前年を4.5ポイント下回る43.5%となった。

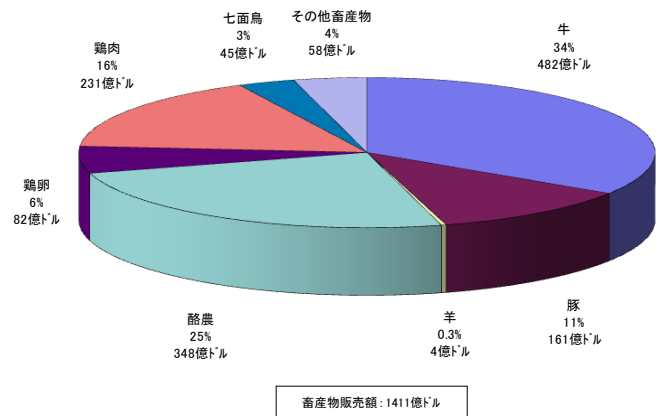
図1 農産物販売額（2008年）



資料：USDA「United States and State Farm Income Data」

畜産部門における品目別の販売額を見ると、肉用牛が482億ドル（農産物全体に占める割合は14.9%）と第1位で、次いで酪農が348億ドル（同10.7%）となった。また、作物部門では、生産量の4割強が家畜飼料に仕向けられるトウモロコシの販売額が516億ドル（同15.9%）と最大となっており、畜産が米国農業に与える影響は極めて大きい。

図2 畜産物販売額（2008年）



資料：USDA「United States and State Farm Income Data」

◆2. 畜産の動向

(1) 酪農・乳業

米国は年間約8600万トン強の生乳を生産する世界最大の酪農国である。しかしながら、国内に巨大な消費市場を抱えていることなどから、国際乳製品市場における米国の地位は比較的低いものとなっている。

① 主要な政策

酪農の主な制度には、連邦生乳マーケティング・オーダー制度(FMMO)と乳製品価格支持制度(DPPSP)がある。FMMOは、オーダー地域内で取り引きされる飲用規格生乳について、用途別の最低取引価格を設定するとともに、生乳取扱業者に対して、生産者へのプール乳価での支払いを義務付けることにより、生産者に対しては安定的な市場を確保すること、また、消費者に対しては合理的な価格で十分な量の良質な飲用乳を供給することを目的としたものである。2000年1月からは紆余(うよ)曲折を経て、①オーダー数の再編統合(当初の31から段階的に縮小され、2004年4月からは10地域となった。)、②生乳の用途区分の再分類(3区分から4区分へ)、③最低取引価格の設定に用いられる価格について、これまでの基礎公式価格(BFP)に代えて、多成分価格形成システムに基づく新基礎価格の導入—などの変更が加えられた。

一方、DPPSPは、米国農務省(USDA)の1機関である商品金融公社(CCC)が、支持価格でチーズ、バターおよび脱脂粉乳を買い上げることにより、加工原料乳の価格を間接的に支持する制度である。

この制度は2008年農業法において、これまでの加工原料乳価格支持制度の仕組みを実質的に維持した上で、名称を「乳製品価格支持制度」に改め、加工原料乳の支持価格を廃止して主要乳製品の支持価格を法律で定める制度に変更された。

② 生乳の生産動向

ア 酪農経営体数

酪農経営体数は、小規模層を中心に一貫して減少傾向で推移しており、2008年には前年比4.3%減の約6万7千戸となった。

表2 酪農経営体数、飼養頭数の推移

(単位:戸、千頭、頭/戸)

区分/年	2004	2005	2006	2007	2008
酪農経営体数	81,520	78,300	74,980	69,995	67,000
経産牛頭数	9,012	9,043	9,137	9,189	9,315
1戸当たり飼養頭数	111	116	122	131	139

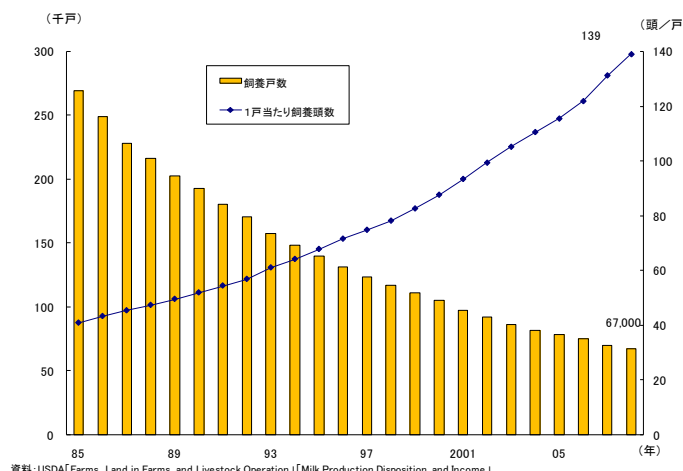
資料: USDA「Farms, Land in Farms, and Livestock Operations」「Agricultural Statistics」「Milk Production, Disposition and Income」

注1: 酪農経営体数は、2007年以降と2006年以前では集計方法が異なる。

2: 経産牛頭数は、年間平均の飼養頭数である。

3: 1戸当たり飼養頭数は、経産牛頭数を経営体数で除したものである。

図3 酪農経営体数および飼養規模の推移



イ 飼養頭数と生産量

経産牛飼養頭数は、80年代中頃から一貫して減少傾向で推移してきたが、99年に下げ止まった後は、小幅な増減を繰り返している。2008年の経産牛飼養頭数は、前年比1.4%増の932万頭となった。

また、2008年の生乳生産量は、前年比2.3%増の8617万トンとなった。

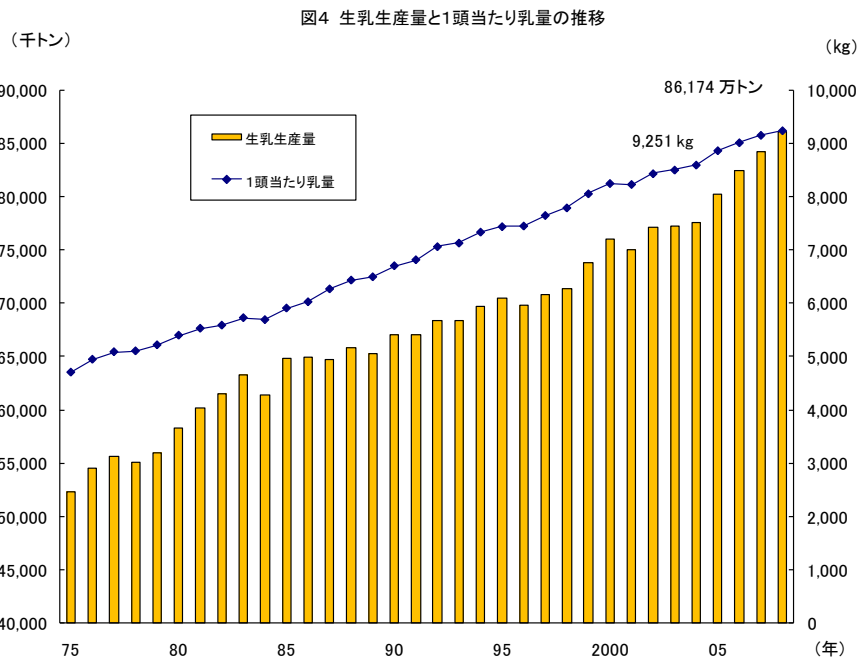
表 3 生乳・乳製品の生産量 (単位:千トン)

区分/年	2004	2005	2006	2007	2008
生乳	77,534	80,253	82,455	84,211	86,174
バター	565	611	657	695	746
脱脂粉乳	641	549	564	589	689
チーズ	4,025	4,150	4,320	4,435	4,496

資料: USDA「Milk Production, Disposition and Income」、「Dairy Products」
注: チーズはカッテージチーズを除く。

ウ 経産牛 1 頭当たり乳量

経産牛 1 頭当たり乳量は、増加傾向で推移しており、2008 年では、前年比 1.0%増の 9,251 キログラムとなった。



資料: USDA「Milk Production, Disposition and Income」



ニューメキシコ州の酪農風景



40 頭ダブルのミルクパーラー

エ 地域別生産動向

生乳は、すべての州において生産されているが、生産量の5割強は上位5州(カリフォルニア、ウィスコンシン、ニューヨーク、アイダホ、ペンシルバニア)によって占められており、上位10州(6位以下:ミネソタ、ニューメキシコ、ミシガン、テキサス、ワシントン)では全体の7割強を占めている。特に、93年にウィスコンシン州を抜いて国内最大の生乳生産州になったカリフォルニア州は、その後も生産拡大を持続し、2008年の生産量は前年比1.3%増の1869万トンとなった。また、第2位のウィスコンシン州は、同1.6%増の1110万トンとなった。

カリフォルニア州を代表とする西部の新興生産地域は、冬期でも比較的温暖で乾燥しているために畜舎などへの投資コストが低く、さらに安価な労働力も確保しやすいことなどから、大規模化が図りやすいという利点がある。カリフォルニア州では、500頭以上の経営体による生産量の州全体に占める割合が92.0%であるのに対し、ウィスコンシン州では24.0%となっている。

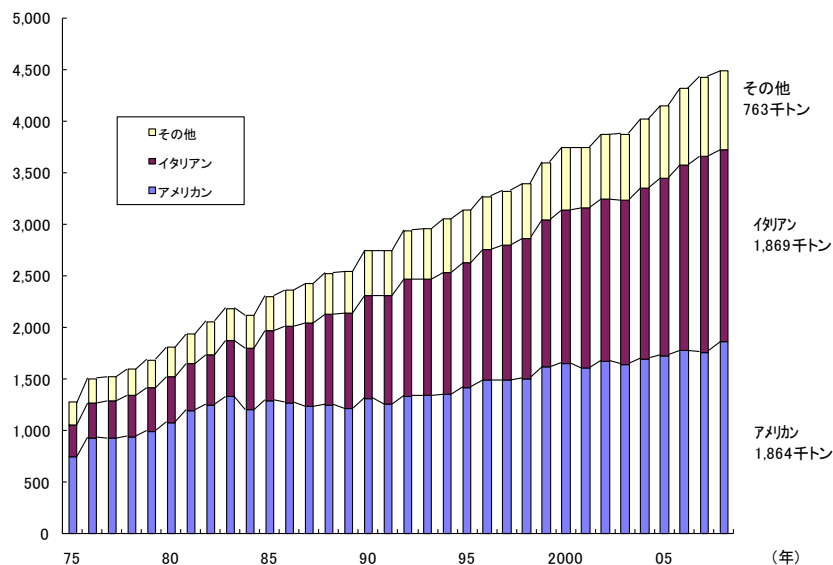
③ 牛乳・乳製品の需給動向

ア 生産動向

2008年のチーズの生産量(カッテージチーズを除く)は、前年比1.4%増の450万トンとなった。このうち、チェダーチーズを中心とするアメリカンタイプの生産量は同6.0%増(186万4千トン)となったが、モッツァレラチーズなどイタリアンタイプの生産量は同1.9%減(186万9千トン)と前年を下回った。イタリアンタイプは、宅配ピザやファストフードでの需要の増加により過去20年以上増加基調で推移してきたが、それらの需要に陰りが見え減産に転じた。同年のチーズ生産量では、アメリカンタイプが41%、イタリアンタイプが42%のシェアを占めた。

また、脱脂粉乳の生産量は、前年比17.0%増の68万9千トン、バター生産量については、前年比7.3%増の74万6千トンとなった。

図5 チーズ生産量の推移
(千トン)



資料: USDA「Dairy Products」

イ 消費動向

1人1年当たりの飲用乳・クリーム消費量(製品ベース、以下同じ)は、ほかの飲料との競合などにより、近年、おおむね減少傾向で推移してきており、2008年では前年比1.0%減の92.5キログラムとなった。なお、飲用乳の消費は、全脂牛乳から低脂肪牛乳、脱脂牛乳へと低脂肪タイプへの移行が進んでいる。

一方、1人1年当たりのチーズ(カッテージチーズを除く)消費量は、近年、増加傾向で推移していたが、2008年は前年比1.2%減の14.8キログラムとなった。また、1人1年当たりのバター消費量は、前年比6.4%増の2.3キログラムとなった。

④ 牛乳・乳製品の価格動向

ア 生乳価格

2008年の加工原料乳の平均価格(グレードB規格生乳の農家販売価格)は、乳製品国際価格の低下を反映して、前年比2.2%安の100ポンド当たり17.91ドルとなった。また、同年の生乳平均販売価格は、前年比4.2%安の18.41ドルとなった。

表4 生乳の生産者販売価格

(単位:ドル/100ポンド)

区分/年	2004	2005	2006	2007	2008
加工原料乳価格	15.45	14.42	12.19	18.31	17.91
生乳平均価格	16.13	15.19	12.96	19.21	18.41

資料: USDA「Agricultural Price」

注:加工原料乳価格は、グレードBの加工規格の生乳価格である。

イ 乳製品の卸売価格

2008年の乳製品の卸売価格は、脱脂粉乳が乳製品国際価格の低下を反映して、前年を大きく下回って推移した。チェダーチーズの年平均価格は前年比5.4%高のポンド当たり183.6セント、バターは、前年比6.9%高の146.3セントとなる一方、脱脂粉乳価格は、前年比29.8%安の同124.6セントと大幅に下落した。

表5 乳製品の卸売価格の推移

(単位:セント/ポンド)

区分/年	2004	2005	2006	2007	2008
バター	181.7	154.8	123.6	136.8	146.3
脱脂粉乳	85.2	95.1	90.4	177.6	124.6
チェダーチーズ	160.4	144.8	121.9	174.1	183.6

資料: USDA「Dairy Market News」

注1:バターはシカゴ・マーカンタイル取引所の現物価格(グレードAA)である。

注2:チーズはシカゴ・マーカンタイル取引所の現物価格である。

⑤ 乳製品の政府買い上げ

2007 年は堅調な輸出需要を反映して米国内の乳製品価格が堅調に推移したことから、商品金融公社(CCC)による余剰乳製品の買い上げは実施されなかったが、2008 年は脱脂粉乳の国際需給が緩和し、価格が急落したことから脱脂粉乳で実施された。

表 6 乳製品の政府買い上げ数量の推移

(単位:千トン)

区分/年	2004	2005	2006	2007	2008
バター	△3	0	0	0	0
チーズ	3	△1	0	0	0
脱脂粉乳	48	△37	28	0	50
乳脂肪分ベース (生乳換算量)	△30	△18	6	0	10
無脂乳固形分ペー ス(生乳換算量)	583	△441	330	0	585

資料: USDA「Livestock, Dairy, and Poultry Outlook: Tables」

注: △は売り渡し

(2) 肉牛・牛肉産業

米国は、世界の牛肉生産量の約2割を占める最大の生産国であると同時に、世界最大の牛肉輸入国でもある。国内的にも、肉牛産業は農産物販売額に占める割合が最大となっており、米国農業の中でも最も重要な部門の一つとなっている。

肉用子牛生産は、家族経営による粗放的な生産・管理が行われる一方、育成された肥育素牛は、大規模なフィードロットで効率的な穀物肥育が行われている。また、肉牛の流通面では、大手パッカーによる寡占化が顕著となっている。

① 肉牛の生産動向

ア 肉用牛繁殖経営体数

肉用牛繁殖経営体数(年間に1頭以上飼養)は、近年減少傾向で推移しており、2009年も前年比0.5%減の75万3千戸となった。

表 7 肉用牛繁殖経営体数、飼養頭数の推移

(単位:戸、千頭、頭/戸)

区分/年	2004	2005	2006	2007	2008	2009
肉用牛繁殖経営体数	774,930	770,170	762,880	766,350	757,000	753,000
繁殖雌牛頭数	32,861	32,915	32,994	32,891	32,435	31,712
1戸当たり飼養頭数	42	43	43	43	43	42

資料: USDA「Cattle」「Farms, Land in Farms, and Livestock Operations」
「Agricultural Statistics」

注1: 肉用牛繁殖経営体数は、2007年以降と2006年以前では集計方法が異なる。

2: 繁殖雌牛頭数は、各年1月1日現在のものである。

3: 1戸当たり飼養頭数は、繁殖雌牛頭数を経営体数で除したものである。

イ 飼養頭数

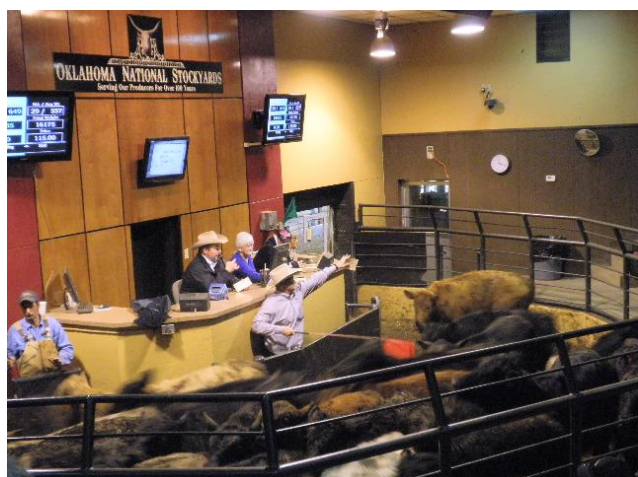
2009年1月1日現在の牛総飼養頭数は、前年比1.6%減の9452万頭となった。米国のキャトルサイクルは、95年をピークに9年連続で減少した後、2005年にはいったん上昇局面に転じた。しかし、2006年のテキサス州を中心とした中南部における干ばつや同年後半以降の飼料コスト高の影響などにより、肉用牛繁殖経営の収益性が悪化したことなどから肉用牛の総飼養頭数は減少局面に入っている。

2009年1月1日現在の飼養頭数の内訳を見ると、肉用繁殖雌牛は前年比2.2%減の3171万頭、また、500ポンド(約227キログラム)以上の肉用繁殖後継牛は、前年比2.1%減の553万頭となった。

さらに、2008年における子牛生産頭数(乳用種を含む)は、肉用繁殖雌牛の飼養頭数が伸び悩んだことにより、前年比1.6%減の3,615万頭となった。



繁殖肉牛経営の放牧風景



競りに掛けられる肉用子牛

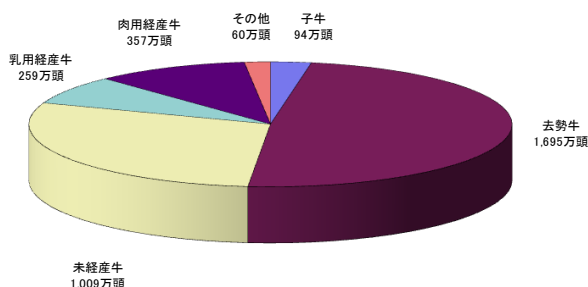
② 牛肉の需給動向

ア 生産動向

2008年の成牛と畜頭数(コマーシャルベース)は、前年比0.3%増の3436万頭となった。

種類別(連邦政府検査ベース)では、去勢牛が前年比1.9%減、未經産牛は前年比1.1%減となる一方、経産牛は前年比8.6%増と前年をかなり上回った。

図6 種類別と畜頭数(2008年)



資料: USDA「Livestock Slaughter」

一方、2008年の成牛のと畜時平均生体重(連邦政府検査ベース)は、前年比4.2キログラム増の582.4キログラムとなった。また、平均枝肉重量(連邦政府検査ベース)も、前年比0.8キログラム増の352.8キログラムと前年を上回った。

この結果、2008年の牛肉生産量(枝肉重量ベース)は、前年比0.5%増の1209万トンとなった。

表8 牛肉需給(枝肉換算)の推移

(単位:千トン)

区分	2004	2005	2006	2007	2008
生産量	11,181	11,243	11,909	12,030	12,095
輸入量	1,669	1,632	1,399	1,384	1,151
輸出量	209	316	519	650	856
在庫量	289	259	286	286	291
消費量	12,587	12,589	12,763	12,764	12,384
1人当たり消費量(年間、kg)	30.0	29.8	29.9	29.6	28.5

資料: USDA「Livestock, Dairy and Poultry Outlook: Table」

注: 1人当たり消費量は小売重量ベースである。

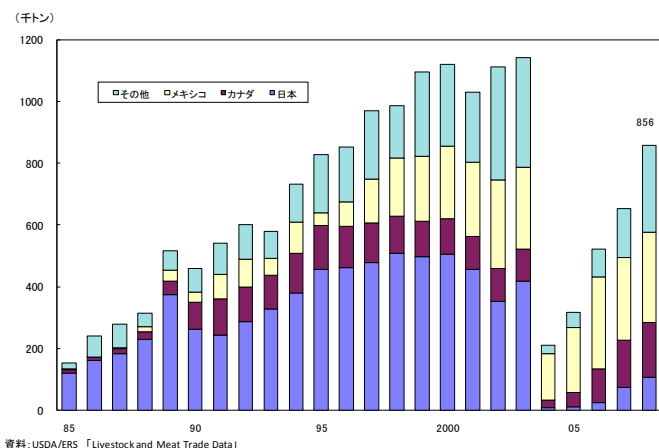
イ 輸出入動向

2008年の牛肉輸入量(枝肉重量ベース)は、米国内の生産量が増加したことなどから、前年比16.8%減の115万1千トンとなった。国別に見ると、前年首位の豪州からの輸入量はドル安や米国内での経産牛のと畜頭数が増加したことなどから前年比25.3%減の30万1千トンとなり、カナダからの輸入量は同6.6%増の38万2千トンと2006年以来の首位となった。

一方、同年の生体牛の輸入は、カナダからの輸入は同12.6%増の158万1千頭となったものの、メキシコからの輸入は同35.5%減の70万3千頭となり、全体では同8.5%減の228万4千頭となった。

2003年12月、米国内で初めてBSEが発生した影響を受け、2004年に大幅に減少した牛肉輸出量は、2008年には前年比31.6%増の85万6千トンと前年を大幅に上回った。国別では、メキシコ向けは同10.7%増の29万4千トン、カナダ向けは同14.8%増の17万7千トンとなった。また、2003年まで最大の輸出相手国であった日本向けは、前年比45.8%増の10万5千トンとなり、2008年は前年に引き続き第3位となった。

図7 牛肉の輸出量と相手国



③ 肉牛・牛肉の価格動向

ア 肥育素牛価格

肥育素牛価格(オクラホマシティー、600～650 ポンド)は、2008年平均では、100ポンド当たり107.6ドルと前年を6.8%下回った。

イ 肥育牛価格

2008年の肥育主要12州(アリゾナ、カリフォルニア、コロラド、アイダホ、アイオワ、カンザス、ネブラスカ、ニューメキシコ、オクラホマ、サウスダコダ、テキサス、ワシントン)における肥育素牛導入頭数は、前年比4.7%減の2230万頭、また、肥育牛出荷頭数は前年比0.2%減の2240万頭となった。

チョイス級肥育牛価格(ネブラスカ、1,100～1,300ポンド、去勢牛)は、2008年平均で100ポンド当たり92.3ドルとなり、前年に比べて0.5%上昇した。

ウ 牛肉卸売価格

2008年の卸売価格(チョイス級、600～900ポンド、カットアウトバリュー)は、前年比2.3%高の100ポンド当たり153.2ドルとなった。

エ 牛肉小売価格

牛肉の2008年の平均小売価格(チョイス級)は、前年比4.0%高のポンド当たり432.5セントとなった。

表9 肉牛、牛肉の価格の推移

(単位:ドル/100ポンド)

区分	2004	2005	2006	2007	2008
肥育素牛	111.8	120.0	117.7	115.4	107.6
肥育牛	84.7	87.3	85.4	91.8	92.3
牛肉卸売価格 (カットアウトバリュー)	141.7	145.8	146.8	149.8	153.2
牛肉小売価格 (セント/ポンド)	406.5	409.2	397.0	415.9	432.5

資料: USDA「Livestock, Dairy and Poultry Situation and Outlook: Table」
注: カットアウトバリューとは、各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構成した卸売指標価格。枝肉そのものではない。

(3) 養豚・豚肉産業

米国の養豚産業は、アイオワ州やイリノイ州を中心とするコーンベルト地帯において、伝統的に穀物生産や肉牛経営の副業として営まれてきた。一方、ノースカロライナ州やオクラホマ州でのインテグレーションの出現が、養豚産業に対し、生産・流通などの面で大きな変化をもたらしてきた。

また、95年に40数年ぶりに純輸出に転じた豚肉輸出は、近年大幅な伸びを示している。一方で、大規模経営体による環境問題が顕在化しており、各州において環境規制を強化する動きがみられている。

① 豚の生産動向

ア 養豚経営体数

養豚経営体数は、小規模層を中心として減少傾向で推移している。2008年は7万3千戸となった。1経営体当たりの飼養規模別では、100頭未満の層が全経営体数の69.3%を占めているものの、飼養頭数では全体の0.9%を占めるにすぎない。一方、5千頭以上の層は、経営体数全体の4.0%にすぎないが、全飼養頭数の61.1%を占めている。

表10 養豚経営体数、飼養頭数の推移

(単位:戸、千頭、頭/戸)

区分	2004	2005	2006	2007	2008
養豚経営体数	69,500	67,280	65,940	75,450	73,150
総飼養頭数	60,975	61,449	62,490	68,177	67,148
1戸当たり飼養頭数	877	913	948	904	877

資料: USDA「Farms, Land in Farms, and Livestock Operations」, 「Agricultural Statistics」 「Quarterly Hogs and Pigs」

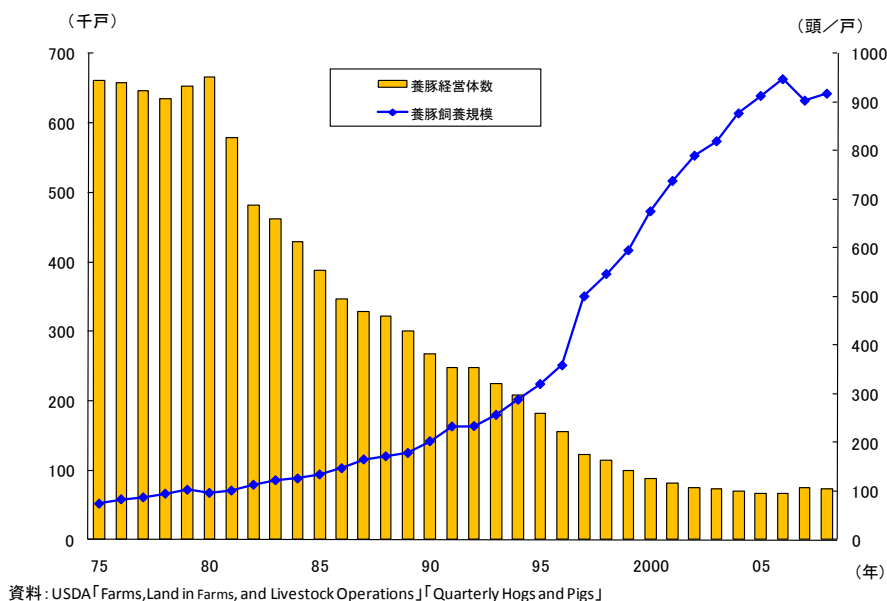
注1: 養豚経営体数は、2007年と2006年以前では集計方法が異なる。
注2: 飼養頭数は、各年の12月1日現在のものである。

イ 飼養頭数

豚飼養頭数は、2003年以降は増加傾向で推移していたが、2008年(12月1日現在)では、前年比1.5%減の6715万頭となった。飼養頭数の内訳を見ると、繁殖用豚は前年比2.7%減の606万頭に、また、肥育豚は前年比1.4%減の6109万頭となった。

2008年(2007年12月～2008年11月)の子豚生産頭数は、繁殖母豚が前年比0.2%減となったが、一腹当たり産子数が前年比2.1%増の9.41頭となったことなどから、1億1503万頭と前年より1.9%増加した。

図8 養豚経営体数及び飼養規模の推移



② 豚肉の需給動向

ア 生産動向

2008年のと畜頭数(コマーシャルベース)は、前年比6.7%増の1億1645万頭となり、豚肉生産量も前年比6.4%増の1億599万トンに増加した。

なお、2008年のと畜時平均生体重(連邦政府検査ベース)は、前年比0.4%減の121.6キログラム、また、平均枝肉重量(同)は、前年比0.5%減の91.2キログラムとなった。

表11 豚肉需給(枝肉換算)の推移

(単位:千トン)

区分/年	2004	2005	2006	2007	2008
生産量	9,312	9,383	9,550	9,953	10,599
輸入量	498	464	449	439	377
輸出量	989	1,209	1,359	1,425	2,117
在庫量	246	218	224	235	288
消費量	8,816	8,669	8,640	8,964	8,806
1人当たり消費 量(年間、kg)	23.1	22.7	22.2	23.1	22.5

資料: USDA「Livestock, Dairy and Poultry Outlook: Table」

注: 1人当たり消費量は小売重量ベースである。

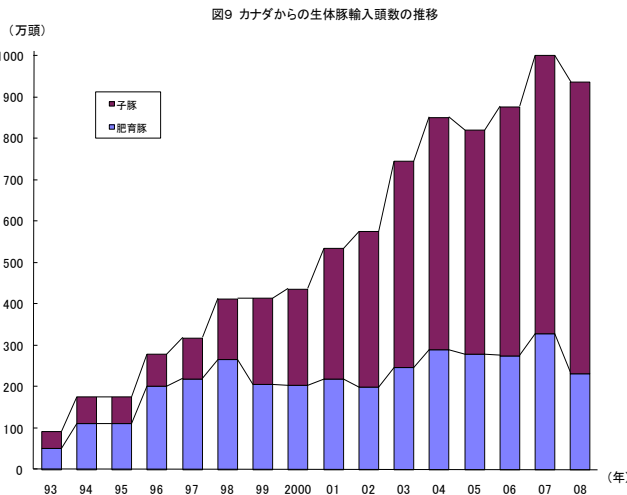


取引を待つ肉豚

イ 輸出入動向

豚肉の輸入量(枝肉重量ベース)は、97年以降おおむね前年を上回って推移してきたが、2004年に減少傾向に転じ、2008年では前年比14.1%減の37万7千トンとなった。国別に見ると、カナダが29万2千トン(総輸入量に占める割合は77.4%)、デンマークが3万8千トン(同10.2%)となった。

また、生体豚の輸入は、ほぼ100%がカナダからのものである。同国からの輸入頭数は、同国の飼養頭数減少や2008年9月末から実施された食肉の原産地表示の実施などの影響から、2008年は前年比6.6%減の934万8千頭となった。

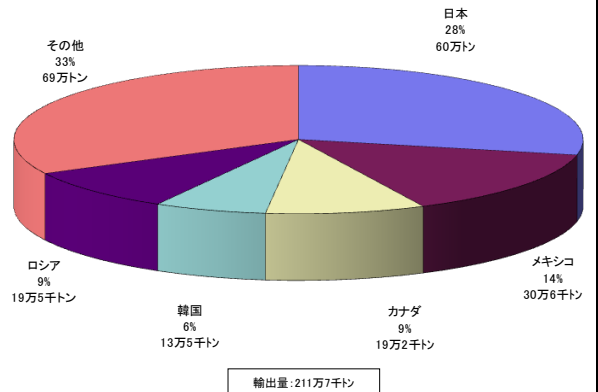


資料: USDA/ERS 「Livestock and Meat Trade Data」

一方、輸出量(枝肉重量ベース)も91年以降、毎年前年を上回って推移してきた。2008年では、最大の輸出先である日本向けが前年比23.4%増の60万トン、第2位のメキシコ向けが、同49.3%増の30万6千トン、また、カナダ向けが、同14.9%増の19万2千トンとこのほかにもロシア、中国および

香港向けが増加したことから、輸出量全体では同48.6%増の211万7千トンと大幅に記録を更新した。

図10 豚肉の輸出相手国(2008年)



資料: USDA「Livestock, Dairy and Poultry Situation and Outlook」

ウ 消費動向

1人1年当たりの豚肉消費量(小売重量ベース)は、近年ほぼ横ばいで推移しており、2008年では、輸出量が増加したこと等から、前年比2.6%減の22.5キログラムとなった。

③ 肥育豚・豚肉の価格動向

ア 肥育豚価格

肥育豚取引価格は、輸出量が増大したことなどから2003年に上昇基調に転じたが、2005年以降は生産量の増加などにより低下傾向となった。2008年は前年比1.5%高の47.8ドルと前年水準を上回った。

表 12 肥育豚、豚肉の価格の推移

(単位:ドル/100ポンド)

区分	2004	2005	2006	2007	2008
肥育豚	52.5	50.0	47.3	47.1	47.8
豚肉卸売価格 (カットアウトバリュー)	73.5	69.8	67.6	67.5	69.2
豚肉小売価格 (セント/ポンド)	279.2	282.7	280.7	287.0	293.7

資料: USDA「Livestock, Dairy and Poultry Situation and Outlook: Table」

注 1: 肥育豚価格は、全米の平均価格。

注 2: カットアウトバリューとは、各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構成した卸売指標価格。枝肉そのものではない。

イ 豚肉価格

(ア) 部分肉卸売価格

2008年の部分肉卸売価格(カットアウトバリュー)は、前年比2.5%高の100ポンド当たり69.2ドルとなった。

(イ) 豚肉小売価格

2008年の豚肉の平均小売価格は、前年比2.3%高の1ポンド当たり293.7セントとなった。

(4) 養鶏・鶏肉産業

米国の養鶏産業は、飼料穀物の大生産国という利点を生かし、生産から流通までの一貫したインテグレーションの進展により、極めて効率的な生産が行われている。また、国内では、消費者の健康志向からむね肉を中心として消費を大きく伸ばすと同時に、低需要部位のもも肉を中心として鶏肉生産量の約15%を輸出している。

① ブロイラーのふ化羽数の動向

2008年のブロイラーふ化羽数は、ブロイラー価格が前年を下回って推移したことなどから、前年比1.3%減の94億7千万羽となった。

② 鶏肉の需給動向

ア 生産動向

2008年のブロイラー生産量は、ブロイラーふ化羽数がわずかに減少したものの、1羽当たりの平均生体重量が増加したことにより、前年を2.1%上回る1656万トンとなった。生体ベースの1羽当たり平均重量は、骨なしむね肉への需要増に伴うブロイラーの大型化を背景に近年増加傾向にあり、同年では前年比1.3%増の2.53キログラムとなった。

表13 ブロイラー需給(可食処理ベース)の推移

(単位:千トン)

区分/年	2004	2005	2006	2007	2008
生産量	15,285	15,869	15,930	16,225	16,561
輸入量	12	15	21	28	36
輸出量	2,170	2,360	2,361	2,678	3,157
在庫量	323	419	338	326	338
消費量	13,080	13,430	13,671	13,581	13,428
1人当たり消費量(年間、kg)	38.1	39.0	39.5	38.7	37.9

資料:USDA「Livestock, Dairy and Poultry Outlook: Table」

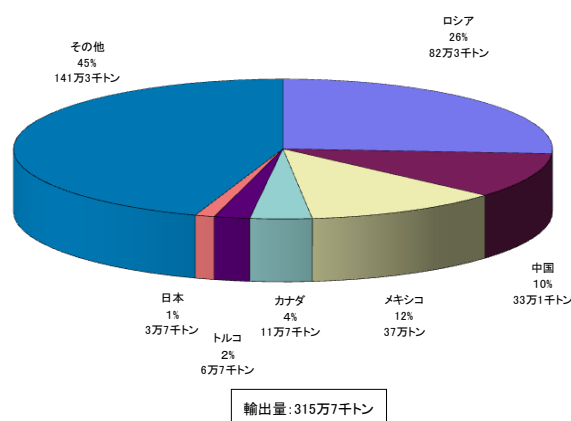
注:1人当たり消費量は小売重量ベースである。

イ 輸出動向

ブロイラーの輸出量は、85年以降一貫して増加傾向で推移してきたが、近年、その伸び率は鈍化していた。2004年に前年を2.8%下回った輸出量は2005年以降再び増加傾向に転じ、2008年では前年比17.9%増の316万トンとなった。

国別では、輸出上位3カ国であるロシア向け輸出量は前年比3.8%減となる一方、中国、メキシコ向けの輸出量は、それぞれ同12.1%、同27.3%と増加した。

図11 鶏肉の輸出相手国(2008年)



ウ 消費動向

1人1年当たりの鶏肉消費量(小売重量ベース)は、健康志向の高まりや加工度の高いアイテムの増加などから順調な伸びを示してきたが、2008年は小売価格が上昇したことなどから、前年比2.0%減の37.9キログラムとなった。

③ ブロイラーの価格動向

ア ブロイラー価格

2008年のブロイラー価格(生体ポンド当たりの生産者販売価格)は、前年を5.0%上回るポンド当たり45.8セントとなった。

表14 ブロイラー価格の推移

(単位:セント/ポンド)

区分	2004	2005	2006	2007	2008
生産者販売価格(生体)	45.2	43.3	36.3	43.6	45.8
卸売価格(丸どり)	74.1	70.8	64.4	76.4	79.7
丸どり小売価格	107.0	105.6	104.9	111.5	120.8

資料:USDA「Livestock, Dairy and Poultry Outlook: Table」

イ 鶏肉価格

(ア) 卸売価格

2008年のブロイラーの丸どり卸売価格(中抜き、12都市平均)は、前年比4.3%高のポンド当たり79.7セントとなった。なお、国内向けが主体となっているむね肉がポンド当たり129.1セント(前年比12.5%安)であるのに対し、輸出向けが主体のもも肉は同63.1セント(同4.3%高)と、日本とは異なり、むね肉はもも肉の2倍以上の高値となっている。

(イ) 小売価格

ブロイラーの丸どり小売価格(中抜き)は、前年比8.3%高の1ポンド当たり120.8セントとなった。

(5) 飼料穀物

米国は、世界最大の飼料穀物の生産・輸出国である。飼料穀物の主力であるトウモロコシについては、世界の生産量の約4割、輸出量についてはその6割弱を占めていることから、世界的な需給動向に与える影響力は極めて大きなものとなっている。

① 穀物の生産動向

2008/09年度(9~8月)のトウモロコシ(サイレージ用を除く)の生産量は、前年度比7.3%減の120億9165万ブッシェル(3億714万トン)となった。これは、1エーカー(約0.4ヘクタール)当たりの単収が、同2.1%増の153.9ブッシェル(9.8トン/ヘクタール)となったものの、作付面積が前年を8.1%下回った(8598万エーカー(3439万ヘクタール))ためである。2008/09年度末在庫は、前年度比3.0%増の16億7331万ブッシェル(4250万トン)となった。

表 15 トウモロコシ需給の推移

(単位:百万トン)

区分/年度	04/05	05/06	06/07	07/08	08/09
生産量	300	282	268	331	307
国内消費量	225	232	231	262	259
うち飼料用	156	156	142	151	132
輸出量	46	54	54	62	47
期末在庫量	54	50	33	41	43

資料:USDA「Feed Grain Database: Yearbook Tables」

② 穀物の輸出動向

2008/09年度のトウモロコシの輸出は、日本向けは増加したものの、その他上位国向けが減少したため、全体では前年度比24.1%減の4697万トンとなった。なお、最大の輸出先国である日本向けは、前年度比5.7%増の1551万9千トンと、輸出量全体の33.0%を占めている。



日本向けに輸出されるトウモロコシの輸出基地

③ 穀物の価格動向

2008/09年度のトウモロコシの生産者販売価格は、燃料用エタノール原料向け需要は引き続き増加した一方、飼料および輸出向け需要は前年を下回り、前年度比3.3%安の1ブッシェル当たり4.06ドルとなった。

表 16 トウモロコシ価格の推移

(単位:ドル/ブッシェル)

区分	04/05	05/06	06/07	07/08	08/09
生産者販売価格	2.06	2.00	3.04	4.20	4.06

資料:USDA「Agricultural Prices」